

ホームページ <http://jmja.jp/>

2014年1月15日
JMJA-News 第13号

日本マスターズ柔道協会

〒153-0065

東京都目黒区中町2-45-8-209

電話/FAX 03(3793)1846

発行 会長 清水正敬

第10回日本マスターズ柔道大会が 開催されました



《日本マスターズ柔道大会開催と第5回IJFベテラン柔道大会について》
*日本マスターズ柔道大会は記念すべき第10回を迎え、IJF・全柔連との共催で第2回アジアグラッドマスターズオープン柔道大会を開催致しました。
本大会は国体開催県で翌年各県柔連様の全面的なご協力を頂いて行つて参りました。
第7回千葉大会以降は

新年のご挨拶

日本マスターズ柔道協会 第二代会長 清水正敬

2014年の新年を迎え新春のお慶び申し上げます。
今年も皆様にとりまして素晴らしい年でありますよう祈願致します。

昨年は6月にユネスコの世界文化遺産として富士山が登録され、9月にはアルゼンチンで2020年夏のオリンピック開催地を東京が勝ち取った。

等々により段々とアベノミクス効果も有り10年以上続くデフレも解消され景気が上向き状況に



有る事は大変結構な事である。

昨年の日本マスターズ柔道協会の活動状況等を報告致します。

協会が独自運営しノウハウを確立、大会の予算管理から申込等事務業務全てを受け、各県柔連様に余りご負担をお掛けしない様やつまいました。
千葉大会より、小林事務局長、玉田事務次長コンビでパソコン活用により事務効率化と経費削減で締切日、前日に約8割近く集中する膨大な申込処理を不眠不休で頑張つて貰っています。
今10回記念大会は講道館に於いてIJF・全柔連との共催で有り、絶対に成功させ協会の存在を示さねばとの強い信念で、洩れの無い用細心の注意を払い数多くの打合せを行い準備して来ました。
結果、満足すべき立派な大会が出来たと思つています。
当初予算計画時、新潟大会の480人が過去最多参加者で有り、開催場所も講道館で協会の存在も除々に認知されつつ有る中、目標を600人とした。
600人に対し744人と目標もクリア出来、外国人も64人と多くの参加が有った。
今大会にも60代91人、70代63人、80代7人、161人の多くの高齢者が参加した中、事故・怪我人0と素晴らしいものであった。
参加者の意識として参加する以上は怪我をしない様、日頃の稽古

古を十分に出来た結果だと思ふ。
前年山口大会では2台の救急車出動、千葉大会では5台の出動で有った。毎年の事ながら高齢者参加のこの大会で一番気を使うところであるが、ホツとした今後もこの様な事故・怪我人0の大会に成る事を期待したい。
又今大会での喜びは団体戦で有った。一昨年10人戦で10チーム、昨年は5人戦となり、単純に二十数チーム位かと思つていたところ、何と44チームには驚いた。
矢張り団体戦は面白い、30代、70代のチーム作りが仲間探しかから始める楽しさである。
柔道大会で一番高い参加料を払つても参加するのは、試合・懇親会を通し柔道仲間として「お互い共通の頑張つてゐるね。」の共感と尊敬の念だと思ふ。
*第5回IJFベテラン国際柔道大会は昨年のIJF世界大会として11月24、26日UAE・アブダビで行われた。
今大会は、試合のみで「形」「団体戦」が無い為日本選手の参加は少数であった。
今回は日本マスターズ大会後2ヶ月の時間が有り問題は無かったが、IJFの大会は運営面で開催地・日程の変更等幾度も有り不信感を持つている。

以前のカナダ本部の大会は第1回〜12回まで6月〜8月で開催、で我々日本マスターズは秋に大会が組めたが、IJFに移管後1回・2回大会5月、3回6月、4回11月、5回11月とばらばら、日本マスターズの日程と重ならないか心配、しかも開催地・日程変更が多く毎度心配している。

又大会運営面でも今回のアブダビでも変わらなかった。

11月23日(土)大会前日の登録・確認・計量が有った。

大会要項には10時開始と有る。日本選手は9時30分指定場所に行き午前中に済ませ、午後は市内観光を予定していたが、一向にその作業が始まらず、えんえん立って待たされ3時頃になって漸く順番待ちの整理カードが出て来たり、椅子が出て来た。

私は日本選手では早い方だったので2時頃全て済んだ。他日本選手は4時過ぎまで掛かった。

私は-90kg申込、前日まで1kgオーバー気にながらの体重計の前でポロシャツを脱ごうとしたら、上も下も取らなくて良し、と計量無しで有った。

長時間待たせたお詫びの様であった。

何日か減量の為、食べずに空腹状態で来たのに何だ、コノ〜って

感じであった。

大会そのものは、世界マスターズ大会としてヨーロッパのトップ選手達が出場しているその中に組み込まれた大会であったので、審判・係員等々他立派な運営で有った。

だが毎度の事ながら今回もプログラムは無かった。

大会終了後の25日朝は大使館訪問、夕方道場訪問を行った。



アブダビ 日本大使館前にて 加茂大使と共に

日本マスターズ協会で海外大会に参加した時は、野口名誉会長時から訪問国の日本大使館訪問と現地での道場を探して交流会を行って来た。

今回も小川郷太郎・元デンマーク大使(マスターズ会員)にお手数をお掛けしUAE・アブダビ大使館・

加茂大使をご紹介頂き、現地での日本企業の活躍等の有意義なお話を伺った。

当日は30度で有ったが、世界一の高層ビルが林立する中、世界一のブルジュ・ハリファビルの145階に昇って見たが一部の緑地の他は全て砂漠で夏場は40度の世界との事、ここでの生活は大変だと思った。

道場訪問ではアブダビで30数年間ご指導されている米田豊明先生(講道館国際部藤田部長と大学同級生をご紹介頂き)道場にお邪魔50人近くのお弟子さん達との合同稽古も大変楽しかった。先生との懇親会では中近東の柔道事情等お話を伺った。年、何度か選手を連れて日本に帰国しているとの事、日本での再会を楽しみにしています。

◎2014年から 清家新会長にバトンを引き継ぎました。

今年はIJF全柔連の要望を受け昨年に続き、第3回IJFアジアグランドマスターズオープン大会を行う事になっている。昨年の大会をベースに是非今年こそ女子の皆さんの多数参加を期待しております。(40人→100人)

◎5年間のお支援・ご協力ありがとうございました。

就任のご挨拶

日本マスターズ柔道協会 第三代会長 清家 春夫

平成26年の新年を迎え、初春のお慶びを申し上げます

このたび、清水正敬会長の後を受けて、日本マスターズ柔道協会の会長に就任しました。

平成25年11月8日(金)、じえびあん(講道館地下1階)で開催された日本マスターズ柔道協会の常任理事会において、来年度の役員人事等が審議されました。

その中で、清水会長から「12月末で退任するので、平成26年1月1日から会長を引き継いでほしい。」との指名がありました。

清水会長が指名した人事案について、常任理事会出席の全理事が同意しましたので、力不足とは思いましたが、日本マスターズ柔道の継続的な発展のためにお引き受け致しました。

日本マスターズ柔道協会は、平成14年(2002年)1月1日、「生涯スポーツとしてのマスターズ柔道の普及、振興を図り、会員の心身の健全な発展に寄与する」とを目的として発足しました。



5月10日千代田区内のグランドアーク半蔵門において、当協会の発足式及び発足記念パーティを盛大に開催、平成16年(2004年)12月には、静岡県浜北市で第1回日本マスターズ柔道大会(参加者200名)を開催しました。以後、埼玉・岡山・兵庫・秋田・大分・新潟・千葉・山口大会を経て、昨年9月には第10回日本マスターズ柔道大会兼ねて第2回アジアグランドマスターズオープン柔道大会を東京・講道館(74名参加)で開催するなどマスターズ柔道の普及・振興を図ってきました。

また、海外活動として、世界マスターズ柔道大会には、平成14年(2002年)開催の第4回大会(アイルランド・ロンドンデリー)以降、第5回大会(日本・講道館)、第6回大会(オーストリア・ウィー

ン、

第7回大会(カナダ・トロント)、第8回大会(フランス・トゥール)、第9回大会(ブラジル・サンパウロ)、第10回大会(ベルギー・ブリュッセル)、第11回大会(アメリカ・アトランタ)、第12回大会(カナダ・モントリオール)及びJF主催の国際ベテラン柔道大会においても平成21年(2009年)開催の第1回大会(ドイツ)から平成25年(2013年)の第5回大会(アラブ首長国連邦・アブダビ)まで各大会に多くの会員が参加し、沢山のメダルを獲得するなど活躍、外国の選手たちと国際交流を深めました。

日本マスターズ柔道協会は発足以来、今日まで14年の歴史と伝統を築いてきました。この間、野口宏水初代会長、清水正敬第2代会長には、当協会発足の準備、組織づくり、大会の開催・運営、関係団体との連携、諸活動の推進等各種行事を遂行し、多くの成果を挙げるとともに、今日の会の礎を築いていただきました。両氏の使命感・責任感、その情熱と行動力に深甚なる敬意を表し、心から御礼を申し上げます。

私は、発足当時の監事に始まり、

平成21年(2009年)2月から野口会長の後を受けた清水会長の就任に伴い、後任の副会長として微力ながら会の運営に協力し、その歩みと発展に関与してきました。

学生会時代や社会人として柔道を修業し、その後中断している人達に柔道界へ復帰してもらうことが重要です。その対策の一つが、マスターズ柔道への参加だと考えます。そのために、マスターズ柔道の普及・振興が喫緊の課題だと思います。

日本マスターズ柔道協会の目的は、生涯スポーツとしてのマスターズ柔道の普及・振興を図り、以て会員の心身の健全な発展に寄与することにあります。

3代目の会長として、今後は歴代会長の方針と意向を踏まえつつ、同時に役員、会員のご意見を聞きながら、当協会が一層充実・発展するように努力していく所存ですので、会員皆様のご理解とご支援・ご協力をお願い申し上げます。

この目的を達成するため、会員相互の友好親善を図る日本マスターズ柔道大会を開催する世界マスターズ柔道大会に参加する世界マスターズ柔道会員との友好親善を図る、等の事業を行っています。

同時に、講道館柔道の目的「柔道修行を通じて身体精神を鍛錬修養し、己を完成し、世を補益すること」を実践し、次世代に伝承する責任があります。

私達は、生涯柔道を通じて、自ら心身を鍛錬修養し、社会に貢献するとともに、次世代の人材育成にも努めていくことが求められています。

今日、柔道人口が減少傾向にある中、柔道を愛好し継続する人を増やしていくためには、



野口初代会長 清水二代目会長 清家三代目会長

新年のご挨拶

日本マスターズ柔道協会 初代会長 野口 宏水

謹賀 新年

皆様には 本年もお揃いで佳き新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。お陰さまで私共本年は恙無く新年を迎える事ができました。

昨年は 新年を挟んで四ヶ月間ガンとの戦いで 皆様のお励ましと家族の昼夜を分かたぬ看護のお陰で無事生還できて感謝の日々を過ごしております。

更に 昨年は二〇〇三年世界マスターズ講道館大会を機に創設発足した日本マスターズ協会の

一〇周年を記念してアジアグラインドマスターズオープン大会を国際・全柔連に協力開催することができました。“参加者の参加者による 参加者のための 生涯柔道 健寿柔道 万々歳!”を叫びました。

昨年はまた闘病中のため 慶應柔道部五〇回皆勤目標が四四回にして潰えましたが、もう一つの講道館全国高段者大会にはお陰さまで三〇回出場を果たすことができました。応援して戴きました皆々様に厚くお礼を申し上げます。



皆様の益々のご健勝をお祈り申し上げますと共に 相変わらずのご交誼をお願い申し上げます。

二〇一四年元旦

以上、昨年の小生の本会報に次いで本年も年賀状にて新年のご挨拶を紹介させて頂きました。が、昨年の本会報で我が郷里佐賀出身の世界一の才色兼備・ミスインターナショナル・グランプリ女王の座を獲得した吉松育美さんに昨年一〇月の第一〇回記念アジアグラインドマスターズオープン講道館大会に臨席・錦上花を添えて戴き、生涯柔道家の面々にご紹介したいと本欄で宣言?しましたので、大会か学士会館での懇親会に登場して貰うべく交渉しましたが 如何せん今や世界

のミスインターナショナル！世界から引つ張り風でアメリカオバマ大統領の第二期大統領就任式に引つ張り出されたり



ミスインターナショナル・グランプリ女王
吉松育美さん

本大会の際は折悪しくハリウッド映画に出演の撮影に参りますとのこと、千載一隅のチャンスを失いましたことをお詫びしてご報告いたします。

この会報で小生が佐賀出身であることから 片桐清司常務理事・北桐館館長より滋賀長浜市柔道大会に同郷佐賀出身 古賀稔彦バルセロナオリンピックゴールドメダリストを講演会に招聘し実技指導をお願いして欲しいとのこと、〇五年第二回埼玉マスターズ大会での団体戦チーム優勝の慶友倶楽部メンバーの一人元嘉納杯選手権者で現在菅での慶應義塾黄金時代の再現復活を目指して指導 着々実績を挙げておられる慶應義塾日吉高校の鍋木柔道部長より依頼して戴

き去る十一月 将来のオリンピックゴールドメダリストを目指す少女に生き生きした古賀選手の一手一投足を目の当たりにして将来に大きな夢と希望を持ったと感謝され小生些か面目を施すことができました。

閑話休題

本年新年より 清水会長が五年の任期を終え（清水会長 ご苦労さまでした！）新たに清家春夫新会長が誕生いたします。小生世界第五回マスターズ講道館大会開催を機に日本マスターズ協会を創設以来初代会長に就任 翌〇4年より五年間会長を勤め マスターズ大会を前年の国体開催地で大会を開催して貰うべく 第一回を静岡浜北にて開催して五回開催を経て、清水会長に引き継ぎました。清水二代会長も五年と定めた任期を終え 本年より三代目清家会長に引き継いで貰うことになりました。任期を最長五年としたのは 往々にしてこのような組織は会長の在籍が長くなると運営・施策がマンネリ化し停滞し活性化に欠ける傾向に随するため最長五年としたものです。常に新しい血液を流入し動脈硬化することなくいつも新陳代謝をしていくよ

うにしておくことが肝要。差し当たつての解決すべき問題は昨年IJFおよび全柔連より出された大会方式を来年以降どう持つて行くかが解決されねばならない喫緊事です。設立当初のマスターズ大会の発端は前年国体開催の運営実績のノウハウをお借りすることであり、更に以前は五段以上の年輩柔道家でしか参加できなかった全国規模の大会に段位に関係なく柔道愛好家は誰でも自由に自主的に自費で参加できる大会にしたことでありこれが 一か所に固定化すると一〇年来築き上げて来たものがまた元に還つてしまう それでは日本各地方の中老年柔道愛好家の発掘と開催地の人々との交流やその地域の歴史 風土・に触れる楽しみが失われることが懸念されるところであり 清家新会長に期待するところである。

最後に私事ですが 一二年一〇月より四カ月間の入院、退院後も当初は車イス そして今では杖をついての生活で、六月より近くの成城リハビリセンターへ週一回通つて旧に復帰すべく通っておりまます。何らかの病気や事故により言葉を失つたり手足等 一部機能をなくしたり・の方々と一日を共にしておりますが、この度

大声で歌おう、そして昔の元気だった時代に還りましょう、とばかりコーラス部を開いております。毎週火曜日二時ごろから 一時間半程みんなで楽しく歌っております。ご自分の将来設計のご参考に見学されては？！

最後その2. ガン以前はタマに飲まない日には手帳にNO DRINK!と書いておりましたが ガン後の今では マスターズ二金会の日か毎週水曜日の渋谷スポーツセンターでの稽古日やその他タマの飲み会の日だけDRINK!と書くようになりました。鳴乎！

二〇一四年 新役員人事

会 長

清家 春夫(新任)

副 会 長

栗本 忠弘

毛利 修

内藤 純 (新任)

西久保 博信(新任)

専 務 理 事

三橋 英夫(新任)

【新役員よりのご挨拶】

■副会長 内藤 純

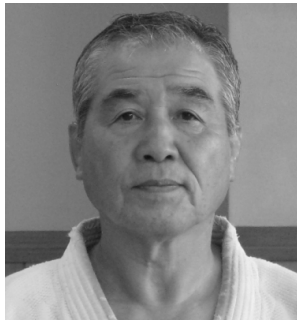
清水会長より副会長との話があり、先輩の人達が大勢おいでになるのでお断りをいたしました。が、ぜひとの話があり、微力ではありますが副会長を務めさせて頂く事となりました。みなさんのご協力を頂きながらマスターズ柔道協会が益々楽しい会に成りますよう務めさせて頂きたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひします。

■副会長 西久保博信

此のたび、三代目清家 春夫新会長の就任に伴い、内藤 純先輩とともに副会長に推挙戴きました西久保です。1982(昭和57年)から2008(平成20年)の間、延べ10回、インド・ドラムサラにて、ドライラマ14世の警護員教育指導に毎回新進気鋭の若手柔道家を伴つて往復してまいりました。或る日“雑誌 柔道”で野口宏水初代会長の書かれた、第9回世界マスターズブラジルサンパウロ大会での日本選手団奮闘記を読んで大変な刺激を受け、翌第10回ベルギー(ブリュッセル)大会からお仲

間に入れていただきました。2011年永島健次郎先輩から日本マスターズ柔道協会会報の編集を引き継ぎ、現在4回目の編集におおわらわですが、協会の歴史と発展を肌で感じられる喜び一杯です。目標・遣り甲斐・生きがい、生涯学習柔道の殿堂、“日本マスターズ柔道協会”“万歳”

■専務理事 三橋 英夫



この度、専務理事となりました三橋英夫です。よろしく願います。

「誰でもいつか歳をとる。当たり前じゃないか、そんなこと、大切なのは胸の炎、燃やし続けていること」という歌の文句があります。

日本マスターズの今までの会報を読み返してみると、「柔道を体の続く限り極めたい」、「この歳になつても競い合うことの出来る喜びを噛み締める」等、年齢を感じさせない、熱い「炎」を燃やし続

けている人達の寄稿が沢山あります。これらの人達の輪を更に大きくしていきたいと思っています。

また、昨年の第10回大会は、二宮主催、全柔連主管で第2回アジアグラッドマスターズオープン柔道大会と合わせて講道館で開催され、744名の参加者となりました。これらの参加者のほとんどは、各国、各地域で柔道指導に携わっている方々です。これらの人達の意見を踏まえ、また、各地域の柔道関係者等の意見に耳を傾けて、更に柔道の普及・発展、本協会の充実・強化に努めていきたいと考えています。

【継続役員よりのご挨拶】

■副会長 栗本 忠弘

大阪の栗本です。近況をということなので、私が13年の間、会長をしております大阪府柔道道場連盟を中心に報告させていただきます。

この道場連盟は、戦後一番早くに組織され、大阪を代表する柔道家の先輩方が代表を務められた由緒ある団体です。

その重責に報いるべく、地域に根

付いた各道場において、少年達を中心とした基礎作りをしつかりとすることが大阪の柔道を支えているという自覚のもと、私なりに努めて現在に至っております。尚、現在も将来日本を代表するような柔道家の育成に尽力しております。

道場連盟としての年間行事は次の通りです。

5月に少年団体と女子選手権、6月から7月に形講習会と特別昇段試合、11月にNPO法人青少年育成会主催の大会、12月に一般も含めた個人戦の大会を実施しております。

この12月8日にも「第60回大阪府下柔道大会」の記念大会を開催し、1500名近くの参加者と応援の保護者で大盛況でした。会場は堺市の大浜体育館で、今は全国的に有名人となられた竹山市長も来賓としてご参加いただき祝辞を頂戴いたしました。私たちがいつも応援して下さると同時に、彼も講道館六段の柔道家として、参加者の心に届くお話をしてくださいました。その後、地元、近畿管区警察学校の柔道教授、香月清人先生による講演があり、公益社団法人代表、保護者代表などの祝辞と続きました。



竹山修身堺市長 来賓挨拶

開会式の締めとして、少年練習生の「投之形」と後援団体による和太鼓の演武があり、一生懸命の形披露と、全身に響く迫力ある和太鼓に会場全員が感動しました。



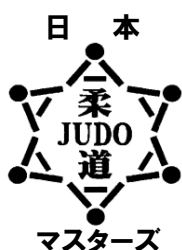
香月清人先生 講演



『投之形』演武

試合の部は、少年・小学1年の部から一般・五段の部まで事故も無く、無事に行われました。このように色々な大会や行事が大きな事故も無く、先人達の意志を引き継ぎ今日まで続けてこられたことを大変嬉しく思っております。

これも周りの人達の理解と協力があったことと、心から感謝しております。



■副会長 毛利 修



新しい時代を迎える

日本マスターズ柔道

昨年(2013)の9月で日本マスターズ柔道大会は10年の歴史を刻んだ。このマスターズ柔道を企画、立案し運営に携わってくれた多くの私たちの汗の賜である。勿論、この大会の主役は遠方から参加して久しぶりに柔友に再会することを楽しみに日夜修練してきた多くの柔道家である。

過去十年の毎年国体開催地を訪ねる企画は幸い各地柔道連盟・協会の温かい理解と協力の陰で楽しい思い出を作ってくれた。平成22年の新潟大会と昨年の東京大会はIJF(全柔連)との協力が実り共催する形になった。今年も同じ形式で開催となることとが決まっているが、参加者の中には以前の各地での開催に郷愁を感じる人がいるかもしれない。そうしたことを念頭に置きながら、日本マスターズ柔道にとっても今年は新たな出発の年とも言えるであろう。

スポーツの世界で、マスターズ柔道と名のつく大会は柔道はむしろ後発かもしれない。一つには、柔道が比較的怪我の多いスポーツと見なされ、高齢者とりわけ現役を離れて年月のたつた人たちは柔道を再開することに躊躇いを感じる場合もある。現役の頃ガンガンやってきた人ほどその傾向があるかもしれない。しかし、

日本マスターズ柔道の短い歴史が証明したことは、機会さへ提供されれば試合でも、形でもやってみたいと思う人たちが大勢いることである。

昼間からテレビを見るだけの人が、何を思い立ったか朝の散歩から始め週何回か道着を持って練習に出かけるようになったという。少なくともその人は三つの良いことをしていると思う。第一は自分自身の健康の維持、第二は練習後に仲間と飲む僅かな時間、第三にそれにより国民の医療費の削減に寄与している。嘉納師範は柔道の目的は体育、知育・徳育そして勝負とし、そのことを1888年「柔道 一班並びにその教育的価値」と題して世に問うた。この中の「体育」とは体を強くし(強)、健康になり(健)かつその肉体を他の人の為に役立てる(用)こととした。健康で幸せな人生を送ることは各人が持つ

権利でもあるが、そのよう健康に恵まれた人が少しでもそうでない人の幸福に寄与することが大切であり、これぞ自他共栄といふことであろう。

その意味でマスターズ柔道の果たしている役割は小さくはない、と思う。

①健康で強靱な体と弱者を思いう心、

②年を取ってもよりよい試合をするための事前の努力をする向上心、

③未だ知らなかった国内外の柔道家との交流による知識や視野の広がり、

④子供たちにそれらの経験を語る楽しさ、等々が国内・海外のマスターズ大会に参加して得られる貴重な副産物である。

三国志曹操の詩に「老驥伏櫪」という言葉があります。マスターズ柔道に参加する人たちは、常にここに謳われた馬のようではないかと思えます。そのような駿馬が今年も一堂に会することができると祈念いたします。

(意訳)

《年老いたかつての名馬が馬小屋の片隅で死を目前に静かにしているが、その心にはいつでも空を千里を駆ける熱い思いを秘めている》

第5回国際ベテラン柔道アブダビ大会

参加者の声と大会結果

※参加者の声は原稿到着順の掲載とさせていただきます。

アブダビで思ったこと

神奈川県 井田 幹夫



今回の世界マスターズの大会がアブダビで開催されると聞いて、是非参加したいと思った。それは勿論諸外国の柔道家との対戦で自分の力量がどの程度なのか、試すには絶好の機会であるからである。と同時に新興国家UAE(含アブダビ)とドバイを実際に見てみたいと長年の願望があった。実際現地に行つてビックリするような場面にあった。ホテルからアラブアイというオアシスの町まで160キロあるが、道路は一直線で一度も信号停止がなかったこと、聞けば信号がないとのことである。道路の左右は本来は荒涼とした砂漠地帯であったが、すべて給水によつて植樹がされて、それが

延々と続く様は想像し難い光景であった。更に砂漠の中に近代的高層ビル群があちこちに林立する景観を見ると、あたかも地中からオイル・金が湧き出し、溢れだして巨大なビル群として変身したかのように見えてくる。UAEは砂漠の国なので水は貴重なものと思つたが、ドバイの世界一の高層建築物バージ・カリファの前の噴水はビル50階の高さ、長さはいくらメートルで、世界最大級の規模だが、間断なく大量の水を噴出する様子を見ると、水が貴重なものでなく、ふんだんに有るようだ。そういえばミネラルウォーターが30円であったのも納得できる。UAEの人口830万のうち2割が自国民で、8割が外国人で国の産業が彼らの労働に依存しているが、他方では自国民が国家の手厚い保護(ほとんど公務員)のもとに、どっぷりと浸っている様子を見ると、オイルがなくなった後は、瞬く間に国が成り立たなくなってしまうのは明らかで、今の繁栄を子孫にどう引き渡すのだろうか。それを見越して

この国を金融・不動産・観光立国にするらしいが、肝心な人の育成はどうだろうか。この国民の姿をみると到底未来は見えてこないのは私だけであろうか。

アブダビ大会とドバイ道場にて

栃木県 久宮登三夫



IJF 主催のマスターズ柔道世界大会も、昨年の大会で5回目となりました。ハンガリー「ブダペスト」の第2回大会にM7（73 kg）で参加してから3年が過ぎ、今回のAUE「アブダビ」大会には、M8になつてしまいました。

自分では、M7当時と体力的にも挑戦力も変らないと思つていましたが、若い方々の試合を観ていると、自分の体力や挑戦力が薄らいできていることに気づかされました。

体力や気力については、年令と共に低下していくことは避けられないことですが、マスターズの先

輩の皆さんを観ていると衰えることを知らない方々ばかりで、私自身の体力維持など、大きな励みと目標となっています。

今回も、前回の経験から約2 kgオーバーの体重で日本を出発し、飲食を制限して計量当日に臨みました。計量当日の運営の悪さ（長時間待たされた）が幸いして、余裕を持ってパス。でも、体力的には披露困ばいの状況でした。

日本でしたら、もつとスムーズな運営ができ選手に疲労感を与えない対応ができただろうなと感じた1日でした。

今回のM8ー73 kgは、日本人は私1人で、中にロシアのサンボ経験の選手もいました。また、ブタペストで対戦したイギリスの選手もエントリリーしていました。

サブ道場での再会は、カタコトの英語での挨拶と、相手の調子を知るための打込み等で交流を深めてきました。

試合に関して言えば、私の場合得意技等が相手に知られていないためか、順調に勝つことができた、結果優勝できました。各試合とも、試合終了後は、健闘を讃え合い次の試合のガンバリを祈ってくれ、これぞ国際親善、交流と感じてきました。

また、今回の世界大会参加で、

大変感動し感激してきましたことは、開催国で日本柔道を指導している先生がおり、現地の道場で青少年を指導していることです。私たちも、

その道場を訪問し、小中学生ぐらいの子供達と稽古をしたことです。多少力を抜いて投げられ役に徹してきましたが、現地の子供達は、日本の柔道者を投げることでできた経験が嬉しそうに感じ取れて、本当に感激をしてきました。

会話での交流はできなくても、十分な交流活動ができた企画でした。米田先生ありがとうございました。

マスターズの皆さんで参加する世界大会は、本当に楽しくすばらしい旅となりました。今年の第6回大会にも皆さんでスペインに行きましようー！！

第5回ベテラン国際柔道大会

を振り返って

岩手県 高橋 利光



まずは、マスターズ柔道協会の役員の皆様の柔道に対する愛情とお力添え、そのご苦勞に對し心から感謝申し上げます。

今回で、第5回となるベテラン国際柔道大会に、M1 90 kg以下級で、初めて出場させていただきました。

結果は惨敗に終わりましたが、他国の選手と戦うことができて、とても大きな経験になりました。中には、まだ現役で頑張る選手も多く、その選手の力には圧倒されましたが、自分の柔道への興味が更に広くなることができました。

そして、今後も日本マスターズ柔道大会や、ベテラン国際柔道大会に参加し続けたいと強く思いました。今回、参加させていただき、このような新たな目標を作るきっかけにも繋がりが、この目標が自分への日々の原動力となることと思えます。

また、参加された皆様と観光旅行も御一緒させて頂き、とても楽しく過ごことができました。

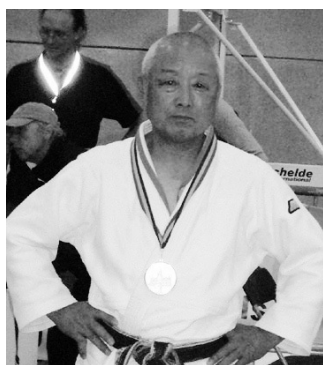
日本とは異なる雰囲気、宗教、文化、風俗、習慣、言語に接することができたのは、また大きな経験であり、見たことのない景色や現地での美味しいお食事など、そういった未知知らない世界に触れられたことは、自分の視野を

広げられ、感性を磨かれたように感じました。この旅行で、また新たに何かを好きになったり、大切と感じたり、自分には無かった物を知るきっかけになり、新たな趣味の発掘などに繋がっていくと思いました。

参加された先生方と、試合や観光旅行はもちろんですが、為になるお話も多く聞くことができ、無事に楽しく過ごることができたことに感謝します。

『ベテラン国際柔道大会参戦記』

岩手県 鬼柳 一宇（73歳）



岩手を拠点とする中小企業経営者として、自称柔道家の2足の草鞋を履くようになって20年余となりました。

今年は、50歳から出場した高段者大会（岩手・東北・全国）57回出場で漸く7段昇段を許されました。地方大会では常に最高齢、最軽量となりますが、次

の目標としては87歳で100回出場を目指します。

職業柄、24時間³⁶⁵日稼動を標榜し、顧客の99%以上が東京以西の名古屋、大阪、九州、亜細亜、欧米である為に、20年以上に亘り人間相手の稽古は皆無の状況です。

今年が高段者大会、マスターズ大会で5大会9試合を戦いましたが、これが今年の私の柔道の全となりです。

若い頃は山奥のダム工事現場を渡り歩き、30歳代で岩手に流れて一人で見会社を起業しました。

以後、事業拡大の為に夢中で走り続け、気がつけば50歳の声を聞き、急速な体力低下を自覚するようになり、若い頃にのめり込んだ柔道への復帰を決意しました。

高段者大会で言えば、全国大会では出場者が多いので年齢、体重でほぼ同じ相手との組み合わせになるが、地方大会では出場者が限られ年齢が一回り、体重が50kg位の開きが生じ、余りにも力の差があり無様な試合になる事もあります。

このような場合でも、相手に対して失礼にならぬように高段者としての責務を果すべく精一杯の精進を続けるべきと考えています。

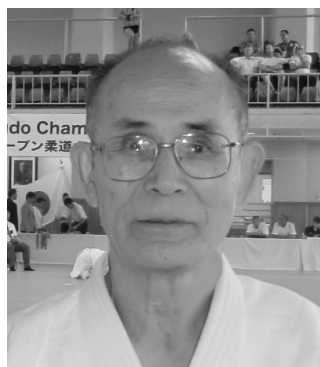
す。

これに対しマスターズの大会は年齢、体重共にほぼ同等の者の対戦となるので、今回敗れたとしても次回は勝てる可能性もあり、正しく生涯柔道のあり方を具現しているものと考えます。

今回のアブダビ大会は外人3人と戦い2勝1負、今後の修練如何では金メダルの可能性が残されています。年が明ければ74歳、M9クラス最後の大会を優勝で終えるべく、新たな修練手段開拓に挑みます。

マスターズ柔道に感謝

永島健次郎(千葉県)



十年前に、野口名誉会長と清水会長のおられる渋谷区スポーツセンターの柔道クラブに入れていただきました。四十年振りに柔道衣を着たのですが、受身の初歩から多くの先生方に親切に教えていただき、お蔭で、日本大

会は一〇回連続出場を果たし、アブダビでの第5回ベテラン国際大会にも参加させていただきました。

これらの大会中、嘉納師範の教えに加えて、名誉会長が折に触れて話されたマスターズ精神の事など、来し方十年のことがいろいろと思い出されました。

(一)日出づる国に生まれ来て

柔の稽古 幾星霜

精力善用 胸に秘め

受け身はすでに 百万回

生涯現役 わが願い

讃えよ柔道 マスターズ

柔道を体のためだけで稽古をしていたら、途中で飽きてしまったと思います。段の低い小生にとつては、マスターズ大会は貴重でした。

(二)万物生を 受けしより

戦いならぬものもある

負けた悔しさ バネにして

柔良く剛を 極めなむ

生涯現役 わがメダル

讃えよ柔道 マスターズ

アブダビの会場では、9月のアジア大会にロシアから一人で参加されたボズキン選手(M55kg)に、後ろから抱きつかれ、びっく

りするやら嬉しいやら。又、登録で並んでいる時には、第1回大会で会ったドイツのシュナーベル選手(M8・100kg超、ロサンゼルス五輪無差別3位)から「ヤマシタはどうしてる?サイトウは?」ことの質問。試合会場では、今大会の最高齢者クロバトス選手(ギリシャ84歳、60kgと、杉原先生と一緒)にしばし歓談しました。

ドバイでの道場訪問では、三十四年の長きにわたってご指導を続けておられる米田先生に、大変お世話になりました。地元の少年の皆さんと稽古が出来たのは何よりの記念です。夜の会食では、超高層ビルや飛行場など沢山の世界一を目指しているUAEとはどんな国か、ご夫妻から拝聴することもでき、午前中伺った加茂大使のお話と合わせ、とても勉強になりました。

後期高齢者の仲間入りをして、体力に自信のなくなった今、嘉納師範の著書を熟読することも、柔道の稽古?ではと勝手に考え、生涯柔道を目指したいと思っています。

(三)心をみがく 汗と汗

柔の道は 奥深し

稽古がつなぐ 五大陸

自他共栄の 花が咲く

生涯現役 わが誇り

讃えよ柔道 マスターズ

これからも、ご指導・ご厚誼の程、よろしくお願い申し上げます。 多謝

第5回IJF主催ベテラン国際

柔道大会に参加して

愛知県 加藤 彰一



今回アラブ首長国連邦の首都アブダビでのベテラン柔道大会に参加した、外人と戦うのは初めてである、アジアマスターズの時もあるが外国人選手と戦う機会がなかった、初めてなのでどんな柔道をするか想像もつかなかった、予測としてはかなり粘り強い力があると想像して、まずちゃんと組ませてもらえないだろうと思っていた、だから日本では夏前からかなり上半身の筋力トレーニングをして臨んだ、自分の柔道ではないが組み手争いで絶対に負けないこと、これだけを稽古して行っ

た、(おかげで全手指を捻挫したが) 返し技を狙っているような両襟を持つ組み手にどう優勢に戦っているように見えるかが今回のキーポイントであった。それは戦ってみて案の定ではあったが確かに受けが強い、それは相手が日本人と戦っているからそういう

デیفエンスになるのか、それとも普段からの指導なのかかわからないが、また捨て身技の多いことにも気づかされた、それしかない選手もいたような記憶がある、それより今大会印象として全試合の中で寝技が上手いと思える外人はほとんどいないことに驚いた、おそらくちゃんとした寝技の指導を受けていないのだろうと思えた。これからはおそらく研究されてくると思うが、いまのところ無防備な試合が目立った。私もどちらかという立ち技で勝負したい方なので、勝ちにこだわればやはり必要だろうと思う、今度挑戦するときは寝技を中心に稽古して行くかと思っています。日本から遠く離れた月の砂漠アラブ アブダビでまさか柔道の試合をすると思っていなかったの

たちとの出会いが今年金メダルなんだろうか。

それぞれのテーマを持って

東京都 宮本 功三



この大会の存在は、2010年、ハングリーで開催された第2回大会からでした。

日本のマスターズでは前年の大分、その前の前の秋田大会で多少なりとも結果を残すことができ、併せて現役時代に叶わなかった世界の舞台を再度挑戦したいと強く想い出しました。

私の時代では、古賀稔彦という絶対的存在が圧倒的な強さで活躍しておりましたが、それ以外の選手でも世界に出場する事が出来れば同位置に立てる選手がたくさんいました。

そういう事もあり、『俺だつて世界一!』を誓った第2回大会。まさかの2回戦敗退をし、その後は何とか気持ちを切りかえて敗者

復活戦を勝ち上がり3位入賞しました。

周りは賞賛してくれましたが、自分では悔しくて複雑な気持ちがありました。

そしてドイツで開催された第3回大会。

テーマは『何が何でも世界一!』前回大会の反省を心に刻み、意地で闘い、前回大会での忘れ物を手に獲る事ができました。

フロリダで開催された第4回大会。『昨年の優勝はマグレでは無い!』を、テーマに掲げ、必死で、かつ意地で闘い、何とか実証する事ができました。

そして今回の5回大会。テーマは非常に悩みましたが『更なる挑戦!』大会前に膝を負傷してしまいましたが、負傷なりにも闘い方はあるはずだと自分を信じ、泥臭い試合展開でしたが、何とか実現する事ができました。大先輩方には叱責されてしまいますが、試合後のせいか未だに気持ちも入らず今後の目標が定まっていけないのが現状です。根底は『生涯柔道』を掲げているので、先ずは怪我の治療に専念し、少しずつ始めながら目標設定をし、堅い決意を持ち、挑戦して行きたいと思っております。

ベテランズ大会に出場して

宮城県 高橋富士男



今から十年前、五十五歳の時に講道館で開催された世界マスターズ大会に初出場、その五年後のベルギー大会、そして今回と五年ごとに出場している勘定である。今年の三月で大学を退職したこともあり時間はたつぷりである。しかし、大会がIJF主催となり内容がいまいち理解できてないことや、開催国もそれなりに遠いアラブなどのこともあり躊躇していたが、私が尊敬する同郷(北上市)の高橋勘十先生が出場するとのことを耳にして全柔連への締切前日に飛び込みエントリーをした。成田を発つて無事にアブダビに到着。早朝であったのでホテルのチェックインまでの時間をいかに過ごすか思案をしていたところ、

清水会長と山本先生から「一緒に観光に行かないか」とのありがたいお誘いに図々しくも便乗させていただいた。思いもしなかったアブダビ市内と近郊の観光を満喫することができたことは本当にありがたいことであった。

さて、翌日は大会出場の確認と計量であったが、午前十時から並んで終わったのが午後の五時くらいであったろうか。日本なら一時間もかからなかったであろうが、相前に段取りが悪かった。これにはさすがの各国選手も怒ってブーイングやら閉まつているドアを開けようとして警備の担当と揉みあいになったりした。しかし、疲れはしたが登録を無事に終えたことと、立派な試合会場を目にしてそれなりに気持ちが高ぶってきた。

大会当日、会場に着いて先ずはアップ会場に貼りだされた自分の階級の組み合わせ表を探すことになるが、M8、100kg以下級の私のクラスは幸いにして三人のエントリーであった。これで二試合はできる、来た甲斐はあったかな、というのが本音であった。私の相手はチェコとウクライナの選手であったがなんと二勝することができた。試合場では丁

Vカメラが選手の動きを追って、館内の超大型スクリーンとアツプ会場の大型スクリーンに映しだされていった。オリンピックや世界選手権のような様相を醸し出して、大会を盛り上げていたし、表彰式も同様に国歌が流れ華やかで心地よいものであった。

今回の大会に参加してみて、フランスやロシア、そしてモンゴルの選手が多いように感じた。国名の入ったウェアを着ているので、どうしても目についてしまうが、今後は日本人選手についてもそれなりのオリジナルウェアを揃えたら参加者が増えるのでは、などと思った次第。

大会二日目に長年の出場と功労が称えられ高橋勘十先生と岡田庫二郎先生、そしてギリシヤの女性のお三方が表彰された。ベテランズ(マスターズ)大会を代表する先生方のそれぞれの勇姿に館内から大きな拍手であった。口よりも道衣を着て実践している先生方が一番、との真の評価であろう。

今回は清水会長をはじめ山本先生、永島先生、内藤先生等々の先生方に多々のご配慮をいただき試合に専念することができた。加え、M10、M11の先生方のパ

ワフルさにも感心させられ、おかげで有意義で楽しいアブダビ滞在となった。感謝。

第5回世界ベテラン柔道大会

兵庫県 岡田庫二郎



11月24日、26日アラブ首長国連邦の首都アブダビで開催された第5回国際ベテラン柔道大会(昨年まで世界グランドマスターズ柔道大会と呼称)にM10(75歳〜79歳)に出場、出場時79歳だったのでM10の最高齢だが、来年はM11(80歳〜84歳)で出場だ。24日、個人戦の結果は3位で銅メダルを獲得した。翌25日、13時大会会場に於いて高橋勘十先生(講道館八段、82歳、岩手県)と私岡田庫二郎(講道館八段、79歳、兵庫県)に対し、国際柔

道連盟会長ビゼール氏から長年にわたる生涯柔道の功績を祝う特別功労賞“金の楯”を授与されました。

この名誉ある受賞は清水会長を始めとする日本マスターズ柔道会員全員のおかげと深く感謝する次第です。

帰国後の12月5日、町内の高年者の忘年会にメダル、楯を持参したところ“おめでとう”の祝福の拍手を戴き、次の目標は金メダルと定め尚一層頑張りますので皆さん宜しくお願いします。

国際柔道大会に学ぶ

茨城県 杉原 尚



私は名刺の発注をいつも身体障害者の働く福祉工房にお願いしている。11月初旬福祉工房にお邪魔した時のこと、30年前、教育の仕事と一緒にした後輩が定年退職後その福祉施設の施設長として働いていた。彼とは久しぶり

りの再会に全日本柔道少年団常任理事(事務局)の名刺を出して挨拶を交わした。彼は私の名刺を見ながら全日本柔道連盟の問題を大変心配していた様子だった。私は11月21日からベテラン国際柔道大会出場のためアブダビとイスタンブールに行く話をした。すると彼はこんな話をしてくれた。昔トルコの軍艦が紀伊半島沖でシケにあい遭難した時に日本の漁師たちが遭難者を救助し、艦を修理してトルコに帰国させた話や先日安倍総理大臣がトルコを訪問した際、その遭難者のご遺族の方々が安倍総理大臣を出迎えてくれたことを話してくれた。その時私の脳裡に浮かんだのは、在リトアニア日本領事代理の「杉原千畝」氏のことである。

(歴史街道11月号)ナチスの手から懸命に逃れようとするユダヤ人達に、外務省の訓令に背いてユダヤ難民への命のビザを発給してユダヤ人を救うという決断をしたのである。話は飛んでしまったが第5回国際ベテラン柔道大会主催はUAEアラブ首長国連邦のアブダビである。UAEは世界で一番リッチな国といわれている。世界一高いビルが聳え立ち、国民は少なくとものんびり屋で(大会登録受付はたちっぱなしの5時間待ち)国民に対する税金はなく、国内

で働いている人達の70%が外国人と聞く、国民は学校や病院等みなただだと聞いた。夢のような話である。所でUAE産の石油の70%を日本が購入している話も聞きました。世界で一番高いビル(603階)の展望台(243階)まで運良く登ることができました。エレベーターの登る時間は僅か60秒チョット、展望台から観るアブダビは真下はビル林立、周囲は砂漠であった。柔道大会の私の成績は2分30秒一心に戦い、三回戦って準優勝(M10-60kg以下、銀メダル)大会登録受付に5時間かかって、試合時間合計7分30秒で終了致しました。

「我、戦へり」

大分県 山田 次光



今回は、世界大会2回目の挑戦となりました。22日雨のアブダ

び空港に到着、2日目、時差ぼけとややオーバー気味の体重で計量に行くが、係の手際の悪さに閉口、どうにか計量にパス。3日目、試合会場は素晴らしくテレビで見ると、あなたは青の柔道着をしていると、あなたは青の柔道着だと一回戦の対戦相手(オーストリア)から言われ急遽着替えていざ畳に上がる。外人特有の上半身の腕力で組負けしたが、変形姿勢からの背負い投げに思わず相手の股間に手が入り、(新ルールなので反則負け)とつさにひつこめそのまま崩れ上四方固め一本。2回戦(ロシア)大外刈りで技あり、そのまま袈裟固めで合わせ技一本。準決勝(ドイツ)左同士で相手は力強く片手で私の釣り手を簡単に落として組ませてもらえず残り時間あとわずかの時、とつさに掛けた支え釣り込み足が有効になりそのまま時間になる。決勝戦は1回戦で戦った相手と同じ組み合わせになり、力で負けていたがこれも無我夢中で掛けた大内刈りが技ありの後、一本に訂正。どうにか表彰台の一番上に上がることができた。

今年は近くにある高校で練習中に4月に肩鎖間接亜脱臼で1カ月、5月には右大腿部の肉離れ

で1カ月、今までしたことのない怪我をして、自分の不甲斐なさを感じながら、何度も挫折を繰り返して諦めかけたが早朝の筋トレ(ニング)腕立て伏せ早く50回、腹筋50回、チューブ引き50回、懸垂10回を6セットと走り込み等でどうにか体力が戻りつつあるが、なかなか元の状態には程遠く、練習も怪我に注意しながら十分に汗をかいて寝技を中心に取り組みだ成果が出せた。今回この大会でも最高齢80歳の先生の活躍を目のあたりにし、まだまだ若輩の私ですが、今後も嘉納治五郎師範の「精力善用 自他共栄」の精神をモットーに、お互いの健康と長寿を願い、夢と感動の舞台でお互いの交流を深め、生涯柔道を目指して頑張る覚悟です。

ベテラン国際柔道大会

応援団として参加

大分県 山田 ともえ



成田空港での、皆様方との対面ではまるで修学旅行に行くような雰囲気でした。日本を離れ、アブダビに降り立ちました。次の日、試合会場では老いも若きも世界各国からJUDOの大会に集まってきたのには驚きました。試合では日本選手の技のキレの良さ、正しく組んで綺麗に投げる。柔道の経験のない私でも魅了されました。選手の皆様が、日々精進を重ね、試合に臨んで来ているのだと頭が下がる思いで観戦しました。試合が終われば対戦相手とも健闘をたたえあい、又柔道の話に盛り上がる。これぞスポーツマンシップではないでしょうか。試合も無事終了し、大使館訪問、観光へと、砂漠に超近代的な国を作りつつあるパワ―を感じたアブダビ、ドバイ。モスクから流れる祈りの時刻を知らせる抑揚をつけた声、アバヤという衣装を身に付けた女性達、エキゾチックな国でもありました。そしてトルコに渡りカッパドキアの奇岩群を見、イスタンブールの歴史あるモスクや宮殿、ボスポラス海峡クルーズを楽しみ良い思い出をたくさん作ることができました。柔道を通じて色々な方々と知り合いになった事。皆様の柔道に込めるひたむきな精神と努力、お互いを尊敬しあう心、

色々な事を学んだ旅でもありました。有難うございました。

私のアブダビ大会

神奈川県 内藤光伸



やはり不安と期待は入り混じるものです！この数か月の稽古、出来るだけ無理なく楽しみながら準備して来た積りだが機体がアブダビ国際空港に到着するやアレもやればコレもやっておけばと後悔が頭を出して来ました。この緊張を十分に楽しんでやれと腹を決めて臨んだ個人戦(11月24日)はあっけなく終了し幸運な結果となりました。メダル授与も何か場違いな印象で早々に終了してほっとしたのが正直な思いでした。試合は全て大先輩との対戦となり若輩者がたまたま宝籤に当たったようなもので皆様には申し訳ない気持ちの表彰台で

した。

前夜IJFより特別功労賞の知らせがあったため11月25日は早朝より高橋勘十先生、岡田庫二郎先生と共に、若い高橋利光選手(-90 kg M1)木島大樹選手(-81 kg M1)の5人で午前8時に大会場に到着。高橋・木島両選手にとっては初の海外挑戦で共に2回戦で悔しい敗退となったが「外国選手の上半身の力は凄いですネ！」と日本の柔道家らしく朗らかな対応！「次につなぐ良い勉強になりました」と捲土重来を誓い合い頼もしい日本マスターズの若大将。木島選手が2回戦で肘の負傷し現地救護班の対応にはハラハラしたが先の長岡大会で親しくなった米国の整形外科医Sandy North氏が駆けつけてくれ「大丈夫」と応急手当をしてくれ安堵。

会場で合流した宮本功三選手(-73 kg M3)の意気込みは凄まじく圧倒的な試合運びで同大会の驚異の三連覇は圧巻！初戦から決勝戦までコーチボックス入りしたがこれ程冷静に間近で試合を楽しく見たのは初めての経験でした。「4年前のハンガリーの3位がほんとうに悔しかった」とは宮本選手の後刻談。アブダビ帰国後

に同選手が全柔連に送られたアブダビ関連の文章を紹介いたします。「改めて大先輩方の柔道に対する姿勢に敬服したこと。それに伴い、現役選手にスポット当ててのことは勿論いいことなのですが、この様に柔道界を牽引してきた大先輩方にもスポットを当てる場、例えば『近代柔道』や雑誌『柔道』ならびに『柔道新聞』等、『全柔連ホームページ』などに掲載してはできないのかと。少しでも掲載してもらえらるることによって、その人を始め、周囲の柔道家達の活力、柔道の発展、さらには部数の発展に繋がるのではないかと……という個人的な意見を勝手ながら述べさせてもらいました。」

興奮とハラハラ、熱い喜びの中若いマスターズ柔道選手とともに戦ったのがアブダビ25日の総括。素晴らしい思い出となりました。

待ちに待った特別功労賞の式典が一向に始まらず、何度も全柔連の中村勇先生(全柔連)にはお手を煩わせました。式典の授与役をするMビゼールJF会長が時間通り現れず大会委員長のAボンダール氏が代行の形で13:00に式典が行われました。MビゼールJF会長がのっそり会場に現れたのは15:00時、言葉数少なくボンダール氏がほぼ代弁している様に見えました。柔道家スポーツマンと勝手な想像をしていましたが中近東のビジネスマンかとの印象を受けたのは小生だけだったのになくと思う出会いでした。

16:00時、地元アブダビTVが生中継で高橋・岡田(両)先生が中村勇先生を通してインタビュアーと対談。年齢・年代によるクラス分けの難を高橋先生が指摘された様子でしたがどんな解釈となったのか分かりませんでした。「アブダビの皆様一言」には柔道を教育の過程にも取り入れ青少年の育成に役立てて欲しいと堂々と力説されました。女性インタビュアーより両先生に記念の写真を取らせて欲しいと要請され「にっこり」スリーショット。ほんとう長い一日の閉幕でした。

5人揃ってホテルに戻り隣のシャングリアホテルの中華食堂で祝杯を挙げたのが21:00時、両先生より「本来は貴方に特別賞をだしたい」と言われ大変恐縮致しました。ほんとうにお疲れ様そして特別功労賞おめでとう御座います。この式典に居合わせた幸せを感じ少しでも日本マスターズ柔道のお役に立てたのかなと思えたこと

とが何より私の金メダルでした。部屋に戻って計測したら23日の計量時より2キロ減っていたのはビックリ！

帰国後、全柔連の中村勇先生やご担当の細川先生に若いマスターズ柔道選手と共にアブダビを戦った興奮と喜びや感謝の言葉と共に、高橋(勘)82・岡田(庫)79両先生が栄えある特別功労賞の授与式が行われた感想文など報告しました。その反面、登録・計量など試合の進行も含め、つまらぬことで混乱や遅延が頻発したこと。また25日の授与式は早朝より待機したわりには、13:00頃と大幅に遅れたり、式典に立ち会はずのMarius Vizer, JF

会長が遅刻して面談・インタビュアーが15:00時になったり、紹介した筈の高橋・岡田(両)先生のプロフィールがJFホームページでは割愛されていて、ビゼール会長の自己宣伝だけが誇大に表示されていることが気がかりだったことも合わせ報告しました。「ここらまでが(現JFの)限界ですね！」とのご返事はありましたが、積極的には話をする立場でないのかなーと思っただけ。大会時、他国のJF役員の方がたのお話を伺ってみました。・仕方ないのかなーって両手を広げていたのが印象的です。

日本マスターズ柔道には若い素晴らしい男女の選手や指導者が大勢おられます。マスターズ柔道の発展を通し日本だけでなく世界柔道の中でも益々活躍されることを期待してやみません。草の根柔道を通しがんばる日本の指導者や青少年に、またこれから柔道を始める子供達にも柔道の素晴らしさや明るい日本の未来を約束せねばなりません。がんばれ日本！頑張れマスターズ！そしていつの日か日本が世界柔道を牽引する立場を回復せねばならないと改めて感じた私のアブダビ大会でした。

第5回国際ベテラン柔道大会

参戦記

神奈川県 西久保 博信



ブリュッセル、アトランタ、ブタペスト、モントリオール、フランクフルト

ト2012年のリオデジャネイロが流れて、初めて中近東開催のアブダビに参戦した。11月23日、受付・登録・計量に7時間かかるなど大会運営が懸念されたが、日本選手団9割(15人)が出場した11月24日は混乱・遅滞なく進行、別記結果のごとく輝かしい成績を挙げることができました。北海道とほぼ同じ位の面積、その8割が砂漠であるUAE(アラブ首長国連邦)は、820万人その22%を占めるアラブ人は税金・学費・医療費等がただ(0)の特権階級なので、78%の出稼ぎ外国人によって国が支えられていると言える。なんでも世界一を目指す積極政策が目立つが、日本大使館表敬訪問の折、「加茂佳彦」大使が述べられた、「国の将来を担う若いアラブ人が子供の頃からメイド(外国人)付きの我儘一杯の環境に育ち、次代を見据えた勉強・努力を怠っている」という話と、22対78の現実に即した自国の防衛(国防)問題に全く関心を持っていないことが大変残念に思った。

11月26日からはトルコのイスタンブール、カッパドキア、ボルボラス海峡クルーズを通じて、オスマントルコ時代如何に超大な国家であったことの誇り、GDP世界10位という国力、されど世界1の交

通洪滞イスタンブルに何故地下鉄がないのか？疑問が解けた。ビル基礎を地中深く打てないから。その理由は市内至る所で遺跡が出てきて、政府の買い上げ(非常に安価)か、工事中止かで地下開発が思うように進まないとのこと、マグニチュード8位の直下型地震が発生したら、市内で6千万人の死者が予想されるという現実論にふれ、東京の方がまだ安心だと思つづく思つた。(旅先でも危機管理が抜けません)

心新たに

F7
-52 kg

神奈川県 齋院 志津子



5年振りの個人戦試合出場となつた第二回アジアグランドマスターズオープン柔道大会。男子団体戦の初監督も体験させて頂き、共に楽しい思い出となった。健康で柔道を続けられる幸せの中、今回目標としていたことは、平常心で試合に臨むことだった。試合

前にはナーバスになることが多く、怒りっぽくなつたり、静かに深く燃えろとは程遠い自分がいた。形での出場が多く、怪我を用心するあまり、力一杯の乱取りからは十年近く遠ざかつていた。暑い夏、久々に現役の男子大学生、20代30代男子との稽古を、息も絶え絶えに行つた。稽古ができたことが喜びだった。相手が力を加減してくれたことも確かだが

。お陰で、女子最年長のメダリストにさせて頂いた。反省点も見えてきた。左の抑え込みの稽古不足だ。後日、その左の稽古を、90キロ級男子と行い、見事に背中の筋肉を痛め、辛い日々を過ごした。「年を考えよ」との警告だった。

初監督は特別にすることもなく、お世話係りであり、皆を信じた見守る。残念ながら一回戦敗退となったが、各々がリベンジに向かつて新たな気持ちで柔道を続けている。若し柔道と出会っていなかったら、生き方も違つていただろう。35歳からのスタート、男子との乱取りは、やみくもに鬱憤を晴らすことがよくと熱中していた。黒帯を目指し昇段試験に挑んだ。講道館の夏期講習会に参加、松永佐枝子さんとの柔の形の取り組みが始まった。その奥深さには学ぶこ

とが多く、人格が出てしまう恐ろしさもある。二人で作りの上げる形は、今なお細々と続けている。柔道その中に流れる精神を噛み締めながら、子供たちに胸を張つて「柔道は楽しい」といえる現役オバンギャルの道を歩み続けたい。

みんなのおかげで金メダル

栃木県 内藤 純



2003年 第五回世界マスターズ柔道大会が講道館で開催された年、思いがけなく-81キログラムで第3位に入賞、それ以来昨年の世界大会を除き本年のアブダビ大会まで連続で参加させて頂いてます。第6回世界マスターズ大会では入賞することができず、翌年より減量して-73キログラムに変更、お陰で毎回3位以内に入る

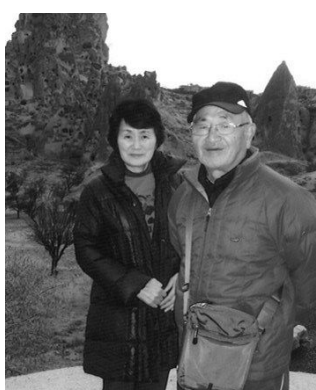
ことができ、ブラジル、フランス、フランクフルトで優勝、又本年もお陰さまで優勝することができました。これも皆さんの応援や道場での練習相手になつてくれる人達や大会の間留守番をしてくれる人達皆のおかげで、とてもありがたく思います。これから高橋勘十先生や岡田庫二郎先生を見習い85歳、否できれば死ぬまで続けたいと思います。

毎回のことですが、今回も試合の前後にアブダビ、ドバイ、トルコのイスタンブール、カップドキア、アブダビの日本大使館表敬訪問、ドバイの米田豊明先生が指導されている柔道クラブを訪問、交流稽古等大変思い出に残る遠征でした。

印象に残つた

第5回国際ベテラン柔道大会

栃木県 内藤 和子



私は応援団の一員として、又主

人の応援も兼ねて今回も参加させて頂き、十日間とても貴重な体験の毎日でした。誰もが一年、年を重ね、少しずつ体の何処かに故障が出てくるものです。が、今回最高齢の高橋勘十先生、更に岡田庫二郎先生のお二人は、八十歳という年齢の壁に挑戦しての参加にもかかわらずハードスケジュールの十日間全行程を皆と一緒に、とてもお元気に参加されたことに、まさしくこれが人生に対して前向きで、一生懸命に生きてる姿のお手本ともいふべき姿ではないかと敬服しました。又これこそが金メダルに価するのではないのでしょうか。更に素晴らしい特別賞を戴き、私達日本からのメンバー一同にとりましても誇りでした。今回参加されました皆様方一人一人は一日一日を誰よりも頑張つてトレーニングに励み、アブダビ大会に望んだことと思います。それだけでなく価値ある賞に価すると信じています。本当に御苦労様でした。「継続は力なり」をモットーにどうぞ来年に向かつて、第3回アジアグランドマスターズオープン柔道大会と第6回国際ベテラン柔道大会目指してこれから頑張つて下さい。微力ではありますが、私もできる限り皆様と

共に、これからも応援団の一員として応援していきたいと思っています。又アブダビの日本大使館を訪問することができ、大使館とお会いできた事も貴重な体験をさせて戴き、何かにつけて下準備をして下さった清水会長をはじめ、役員の皆様がた有難うございました。

私事ですが、十日間快く大会に参加させてくれた保育園の職員、留守を守ってくれた家族の皆に深く感謝している次第です。さらに遠方(東北や九州)からの参加の皆様方、本当に御苦労さまでした。また来年元気で会います。できまことを楽しみにしています。

第5回国際ベテラン

柔道大会に参加して

岩手県 高橋 勘十



平成15年、第5回世界マスターズ柔道大会が講道館で開催され、その報を受け、年齢、体重等に配慮した生涯柔道を目指す柔道愛好者にとっては格好な大会と知り出場し、今に至っております。所がIJF(国際柔道連盟)主催の今年の大会は様相が一変し、戸惑いの連続でした。最初の受付、登録、計量からです。9時半にホテルを出発し会場へ、午後になっても順番が回ってこない、長旅の疲れに5時間の待ち時間が重なり散々でした。11/24日、大会当日の組み合わせを見て吃驚、なんとTAKAHASHI・KANJUとKANJU・TAKAHASHIが対戦することになったのです。この件は一方が棄権することで解決したが、次の組み合わせをみて二度吃驚、体重は-66キログラムだが、年齢はM11(80歳以上)、M10(75歳~79歳)、M9(70歳~74歳)の3カテゴリー統合、4人のリーグ戦になっていました。大会要項に無い、納得のいかない組み合わせに疑義を挟む余地も、準備運動をする時間もないまま試合に突入しました。怪我、事故なくすんでやれやれの大変な大会でした。次回は是非ルールに忠実な大会運営を願う次第です。翌日は表彰があるということで、ドバイ観光の皆さんと別行動で岡

田さんと二人で会場に向かいました。受賞者はギリシャの年配の女性と高橋・岡田の三人でした。表彰者は国際柔道連盟ビゼール会長で受賞理由は出場回数、成績、年齢等を勘案しての表彰と受け賜りました。三人は表彰台に上り、世界柔道連盟からの出場証明賞状と開催国アラブ首長国連邦から金属製の重厚な楯が授与されました。全く予期せぬ授章で感激ひとしおでした。後で岡田さん曰くこれは世界に三つしかない楯だぞ」と思わずにんまりしたのでした。重い荷物も苦にならぬ晴々とした思いの帰国となりました。いよいよ本年も大詰めとなりました、健康で新年を迎えたいと願っております。自分もまだM11の出場資格を持っております、新年も皆様と一緒を願うので迎春です。

マスターズとの出会い

東京都 木島 大樹



2013年は私にとって大きな変化があった一年となりました。一月に五段へ昇段し、四月の全日本大会に出場し、四月の全日本大会に出場し、二月には三十歳になったことによりマスターズ大会への出場も可能になり、初出場致しました。九月に行われたアジアマスターズ大会では個人戦と団体戦に出場し、個人戦ではM-1の81kg級で3位に入賞することが出来ました。団体戦においては今回のアブダビでの世界マスターズ大会でもお世話になった内藤光伸先生をチーム監督として結成された『がんばれ福島』の先鋒として出場させていただきました。年齢も経験もバラバラの団体戦が新鮮で、結果はあと一勝で3位入賞というところまで進みましたが入賞ならずでしたが、一丸となつて一緒に戦えて楽しかった気持ちを感じ、柔道が改めて楽しめるものとして体感する事が出来ました。11月はアブダビで行われた世界マスターズ大会に出場致しました。初の海外&国際試合ということでパスポートや試合用の青道着を用意するところから始まったこと

ともあり、準備も大変でしたが今思い返すと良いきっかけだったと思います。試合に関しては今回もアジアマスターズ大会と同じ81kg級で出場しました。

一回戦では南アフリカの選手と試合をし、初めに有効を取り有利に試合を展開していき、最後は寝技で勝負をして上四方固めで一本勝ちと幸先のよいものでしたが、二回戦のカザフスタンの選手との試合では力負けしてしまい良いところがなく圧倒されて負けてしまいました。敗者復活戦はロシアの選手でした。二回戦と同様に完全に力負けで投げられた際に左肘を負傷してしまい、格好の悪い終わり方となってしまいました。

結果を残すことはできませんでしたが世界を舞台に試合をする経験が出来た事は大きな経験となつたのと同時に世界の柔道に対する熱意を肌で感じる事が出来、刺激を受けました。



第5回世界マスターズ

柔道アブダビ大会

UAE 柔道コーチ 米田豊明



現在、私が指導しているドバイ柔道会はドバイに存在する唯一の柔道クラブです。

会員数は子供、大人で50余名です。

ドバイは国際都市なので、生徒の国籍は22カ国以上の異色な興味深い柔道クラブです。

フランス、US、英国、ロシア、カザフスタン、タジキスタン、チエチン、エジプト、チュニジア、アルジェリア、レバノン、シリア、パレスチナ、UAE等、日本人も数名参加しております。

今回、アブダビ大会に参加された日本マスターズ協会の選手達と交流のために、ドバイ柔道会道場に訪ねてきてくれました

これから、お話しする Ahmed (アハメッド42歳) も私の生徒で、UAE人であり、筑波大学に

柔道コーチ研修の経験もありです。

現在、コンチネンタルの審判資格を有しており、柔道の稽古は3年間ぐらい中断しておりました。

アブダビのマスターズ大会ではテレビ中継の解説者として、試合会場に居合わせており、柔道試合の観戦をしていました。

日本選手方の試合を実際に見て、60、70歳台の年齢を感じさせない鋭刺とした、

軽快な体裁きと華麗な技で相手を投げる様子を目の当たりにしました。

彼の表現を借りれば、さっささと軽い足取りで横に移動し、まるでワルツを踊っているような足運びで、内股一閃、見事な一本勝ちを見ました。「これぞ柔道！これぞ日本柔道！」と感

極まるものがあつたようです。彼は永い間、柔道着に袖を通していなかったのですが、何を思ったか、突然、道場に顔を出し、練習に参加しました。

彼の言うには、自分は40歳を過ぎて、柔道は体力的、精神的にもう無理だろうと自分勝手に、自己解釈していたようです。

しかし、自分より年齢がずっと上の先生方の技の冴えを見て、柔道は一生追求していくものなのだと、

強く感じたとのことでした。

私は彼に「それはいい話だ。ここに居る生徒達に君の話を聞かせてやってくれ。」と言え、

彼は試合観戦時を思い出し、興奮した様子で、語り始めました。生徒達も彼の話を聞いた後は、今まで柔道について考えたことも無かつた何かを得たようです。

生徒達には柔道には勝負は勿論、大事だが、継続してやってみなければ分からない深い部分が沢山あるので、継続して生涯柔道追い求めて行つて欲しいと、常々言っておりますが、アハメッドの話がもつと分かりやすかつたようです。



私の生徒たちに感動を与えてくれたマスターズ柔道大会の意義、重要性を見ました。

今回UAEに来られた先生方と一緒に感謝をささげます。

第5回 IJFベテラン

国際柔道大会

結果

*場所: A D N E C

アブダビ UAE

*日程: 11月24日(日)

26日(火)アブダビ大会

1 高橋 勘十 M11 M10 M9 統合 66kg 銀

2 岡田 庫二郎 M10 60kg 銅

3 杉原 尚 M10 60kg 銀

4 永島 健次郎 M10 60kg 金

5 山本 健夫 M11 M10 M9 統合 66kg 銅

6 内藤 純 M9 73kg 金

7 鬼柳 一宇 M9 60kg 銅

8 中島 忠 M9 66kg 金

9 清水 正敬 M9 90kg 金

10 西久保 博信 M9 73kg 銀

11 内藤 光伸 M11 M10 M9 統合 66kg 金

12 井田 幹夫 M8 66kg 銀

13 久宮 登三夫 M8 73kg 金

14 山田 次光 M8 81kg 金

15 上木 保男 M7 81kg

16 高橋 利光 M1 90kg

17 木島 大樹 M1 81kg

18 高橋 富士男 M8 -100kg 金

19 加藤 彰一 M6 81kg 銅

20 小野 頼年 M5 81kg 金

21 宮本 功三 M3 73kg 金

22 豊田 貴志 M1 -100kg 銅

*17 日本マスターズ協会 18以降 個人参加

*高橋勘十先生・岡田庫二郎先生 IJFより表賞された。

※別項トピックス参照

2013年

第二回アジアグラント

マスターズオープン柔道大会

兼第十回記念日本マスターズ

柔道大会

日程*

2013年9月21日(土)・22日(日)

場所*講道館大道場

【年齢別・体重別個人戦の部】

M1 60kg以下

1位 岡口 勝之(東京都)

2位 松村 建(富山県)

M1 66kg以下

1位 原田 大輝(兵庫県)

2位 北野 将章(兵庫県)

3位 池沢 孝平(滋賀県)

3位 片桐 亮(神奈川県)

M1 73kg以下

1位 菊地 晃(岩手県)

2位 西村 剛(埼玉県)

M1 81kg以下

1位 高井 健介(東京都)

2位 石森 辰浩(宮城県)

3位 木島 大樹(東京都)

3位 高嶺 和秀(宮城県)

M1 90kg以下

1位 村山 暁洋(東京都)

2位 高橋 利光(岩手県)

3位 長田 忠(東京都)

M1 +100kg

1位 岩田 和治(山口県)

2位 深谷 俊文(北海道)

M2 60kg以下

1位 川野 英二(愛媛県)

2位 林 健太郎(長野県)

M2 66kg以下

1位 中山 直秀(長崎県)

2位 元井 竜(東京都)

3位 林 峰裕(愛知県)

3位 ズロフチン(アルゼンチン)

M2 73kg以下

1位 高本 裕和(東京都)

2位 クレーマン(カナダ)

3位 中島 和彦(大阪府)

3位 高塚 剣(愛知県)

M2 81kg以下

1位 高岡 浩平(石川県)

2位 水口 透(静岡県)

3位 小吉 忠勝(大阪府)

3位 市来 隼人(大阪府)

M2 90kg以下

1位 菊地 嘉幸(神奈川県)

2位 渡辺 良康(福島県)

3位 秋田 芳和(静岡県)

3位 西條 邦彦(静岡県)

M2 100kg以下

1位 清田 雄大(愛知県)

2位 ミッチェル(ニュージーランド)

3位 根本 浩明(栃木県)

3位 高橋 俊博(千葉県)

M2 +100kg

1位 上口 孝太(東京都)

2位 池内 郁暢(東京都)

3位 バータル(ハンガリー)

3位 林 正拓(東京都)

M3 73kg以下

1位 宮本 功三(東京都)

2位 内村 直也(大阪府)

3位 尾原 弘恭(大阪府)

3位 高野 重好(東京都)

M3 81kg以下

1位 根岸 豊(東京都)

2位 佐々木仁史(埼玉県)

3位 長谷川靖二郎(大阪府)

3位 勢田 誠一(宮城県)

M3 90kg以下

1位 レボ(アルゼンチン)

2位 信國 文孝(福岡県)

3位 キス(シカゴ)

3位 桂 剛(大阪府)

M3 100kg以下

1位 額 綱 明久(東京都)

2位 平田 和義(大阪府)

3位 カタジャール(オーストリア)

3位 川坂 修治(石川県)

M3 +100kg

1位 深井 茂和(愛知県)

2位 野本 大道(愛知県)

3位 中谷 善和(滋賀県)

M4 60kg以下

1位 安井 重臣(石川県)

2位 太田 知博(静岡県)

3位 在間 昭治(東京都)

3位 今野 雄(岩手県)

M4 66kg以下

1位 岡村 忠彦(東京都)

M4 81kg以下

1位 釘宮 尚(千葉県)

2位 マサヒロフ(キルギス)

3位 清水 穰治(東京都)

3位 間瀬 吉晃(愛知県)

M4 90kg以下

1位 小坂 重人(秋田県)

2位 壇上 竜二(愛知県)

3位 カールスソン(スウェーデン)

3位 市原 英夫(東京都)

M4 100kg以下

1位 アリリユーエフ(ニュージーランド)

2位 原口 正秀(福岡県)

3位 ジョーンズ(ガナ)

M4 +100kg

1位 竹中 恭きたお司(鳥取県)

2位 小沼 吉宏(東京都)

3位 高宮 和弘(山形県)

M5 60kg以下

1位 荒木 秀一(新潟県)

2位 廣瀬 聡(千葉県)

M5 66kg以下

1位 喜多 康之(大阪府)

2位 平野 健太郎(千葉県)

3位 村上 和男(宮城県)

3位 喜井 仁司(愛媛県)

M5 73kg以下

1位 上田 一美(愛知県)

2位 久家 浩(埼玉県)

3位 油屋 康(東京都)

3位 本橋 政義(東京都)

M5 81kg以下

2位 中山 章司(香川県)

3位 南 睦志(滋賀県)

3位 渋谷 栄一(静岡県)

M5 100kg以下

1位 高橋 俊哉(青森県)

2位 大内 克易(福島県)

3位 養性 剛(兵庫県)

M5 +100kg

1位 小野 康行(静岡県)

2位 村上 隆志(青森県)

M6 60kg以下

1位 大屋 智次(福岡県)

2位 北尾 浩(兵庫県)

3位 木元 献治(神奈川県)

M6 66kg以下

1位 福田 孝俊(島根県)

2位 小久保 隆(愛知県)

3位 庄司 裕(三重県)

3位 大内 基樹(北海道)

M6 73kg以下

1位 伊福 義雄(宮城県)

2位 倉野 祐一(岐阜県)

3位 石邑 勇(千葉県)

3位 飯塚 雅彦(群馬県)

M6 81kg以下

1位 卜部 秀幸(愛知県)

2位 加藤 彰一(愛知県)

3位 神保 恵一(新潟県)

3位 モントラシ(アルゼンチン)

M6 90kg以下

1位 バルボザ(ブラジル)

2位 大塚 俊彦(埼玉県)

M7 60kg以下	1位 橋本 和佳(千葉県)
2位 八坂 楠夫(千葉県)	
M7 66kg以下	1位 佐々木安廣(岩手県)
2位 守屋 榮吉(岩手県)	
3位 山口 幸雄(栃木県)	
3位 藤岡 哲也(東京都)	
M7 73kg以下	1位 一言力(静岡県)
2位 山田 公平(香港)	
3位 鈴木 善幸(愛知県)	
3位 土屋 勝広(千葉県)	
M7 81kg以下	1位 太田 明男(神奈川県)
2位 吉成 隆杜(東京都)	
3位 平野 相徳(和歌山県)	
M7 90kg以下	1位 神園修一(東京都)
2位 蓬萊 敬(兵庫県)	
3位 大瀧 光好(宮崎県)	
M7 100kg以下	1位 フランコワスキー(オーストラリア)
2位 高野 信博(福島県)	
3位 足立 俊二(兵庫県)	
3位 足羽 裕二(兵庫県)	
M7・M9 +100kg	1位 本田 喬(新潟県)
M8 60kg以下	1位 大矢 八平(兵庫県)
2位 伊賀 信義(山口県)	
3位 山下 豊(石川県)	
M8 66kg以下	1位 柿田 豊一(石川県)
2位 濱口 國光(愛知県)	
3位 馬場猪虎雄(兵庫県)	
3位 田所 一彦(茨城県)	
M8 73kg以下	

1位 久宮 登美夫(栃木県)	2位 片桐 清司(滋賀県)	3位 来田 武(香川県)	3位 田房 豊彦(奈良県)
M8 81kg以下	1位 山田 次光(大分県)	2位 大野 木利永(山形県)	
M8 90kg以下	1位 山本 昭(兵庫県)		
M8・M9 100kg以下	1位 高橋 富士男(宮城県)		
M9 60kg以下	1位 清水 周(東京都)	2位 橋 春夫(大阪府)	3位 鬼柳 二字(岩手県)
M9 66kg以下	1位 大窪 龍史郎(埼玉県)	2位 岡本 美臣(東京都)	
M9 73kg以下	1位 西尾 勝彦(奈良県)	2位 内藤 純(栃木県)	3位 久保田 友治(東京都)
3位 黒澤 安博(埼玉県)			
M9 81kg以下	1位 池田 正男(兵庫県)	2位 役田 英穂(埼玉県)	3位 彦素 久仁雄(滋賀県)
3位 本間 徹(東京都)			
M9 90kg以下	1位 鷹尾 健治(香川県)	2位 今里 宏一郎(東京都)	
M10 60kg以下	1位 永島 健次郎(千葉県)	2位 杉原 尚(茨城県)	
M10・M11 66kg以下	1位 高橋 勘十(岩手県)	2位 福盛田 立明(神奈川県)	

M10 73kg以下	1位 野口 良栄(新潟県)	2位 若月 良夫(新潟県)	
M10 81kg以下	1位 佐藤 勝志(東京都)		
M11・M12 73kg以下	1位 竹安 晃照(東京都)	2位 安河内 浩(東京都)	3位 美濃岡 清三郎(兵庫県)
M11 81kg以下	1位 森本 唯行(東京都)		
女子 年齢別・体重別個人戦	F1・F2 52kg以下	1位 内藤クリスティー(栃木県)	2位 舟木 千佳(東京都)
F3・F5 52kg以下	1位 福永 美香(山口県)	2位 オスナ(ベネズエラ)	
F1 57kg以下	1位 水田 昌子(大阪府)		
F3・F4 57kg以下	1位 松本 紀子(愛知県)		
F7・F8 57kg以下	1位 齋院 志津子(神奈川県)		
F1・F2・F3 63kg以下	1位 内海 まゆみ(埼玉県)		
F4・F5 63kg以下	1位 ギリエン(ベネズエラ)	2位 岩田 美喜(愛知県)	
F3・F5 70kg以下	1位 沢藤 純(愛知県)		
F4 70kg以下	1位 カステラノ(ベネズエラ)		
F1 78kg以下			

1位 北田 裕美子(福岡県)	F1・F3・F4 +78kg	1位 グリフィス(ベネズエラ)	2位 野村 紗矢香(和歌山県)
【団体戦の部】			
男子団体戦出場チーム(44)			
・東京都庁B(東京)			
・北海道柔道連盟(北海道)			
・本郷柔道倶楽部(東京)			
・サイモンポリバー(ベネズエラ)			
・中央区柔道会(東京)			
・丸の内柔道倶楽部B(東京)			
・柔連会A(兵庫)			
・新宿選抜軍(新宿区)			
・東京柔道ばか(東京)			
・昭徳館A(栃木)			
・愛柔会(愛知)			
・中野C(東京)			
・頑張れ福島(東京(神奈川県))			
・マウイ(ニュージーランド)			
・お坊さん(東京)			
・チームトライ(混成)			
・昭徳館B(栃木)			
・東京城南チーム(東京)			
・千葉・関西連合チーム(混成)			
・永代柔道倶楽部(江東区)			
・東京武道館柔友会(東京)			
・元気ひむか(混成)			
・大木塾(東京)			
・神奈川県教員クラブ(神奈川県)			
・丸の内柔道倶楽部A(東京)			
・浦安市柔道協会(千葉)			
・ツマツ(ニュージーランド)			
・立教クラブ(東京)			
・チームアルゼンチン			
・練馬柔道倶楽部(練馬区)			
・中野B(東京)			
・AGEO(埼玉)			
・衣川柔道同好会(兵庫)			
・東京都庁A(東京)			
・近畿会(混成)			
・丸の内柔道倶楽部C(東京)			
・昭徳館C(栃木)			
・湘南ル・ミラクル(神奈川県)			

・紀尾井町柔道倶楽部(東京)			
・柔連会B(兵庫)			
・ブンガ(ニュージーランド)			
・中野A(東京)			
・やまあらし(神奈川県)			
・東京ガス・大阪ガス(混成)			
【男子団体戦結果】			
1位 神奈川県教員クラブ			
2位 東京武道館柔友会			
3位 柔連会A			
3位 近畿会			
【女子団体戦出場チーム(7)】			
・全知多柔道会(真綿の会A)(愛知)			
・全知多柔道会(真綿の会C)(愛知)			
・神奈川県教員クラブ(神奈川県)			
・全知多柔道会(真綿の会B)(愛知)			
・サイモンポリバー(ベネズエラ)			
・和歌山きーちゃんCLUB(和歌山)			
・昭徳館			
【女子団体戦結果】			
1位 サイモンポリバー			
2位 神奈川県教員クラブ(神奈川県)			
【形競技の部】			
1位 取入 江浩正(大阪)			
2位 取奥 野勝彦(大阪)			
2位 取小 峰義次(埼玉)			
受 佐藤 英則(東京)			
【固の形】			
1位 取 芦田 和典(大阪)			
2位 取 入江 浩正(大阪)			
2位 取 義和 田功(栃木)			
2位 取 古峯 弘道(栃木)			
受 原 中平 義仁(長野)			
受 原 和男(長野)			
【極の形】			
1位 取 金藤 宏行(香川)			
2位 取 溝渕 充(香川)			
2位 取 植木 良夫(栃木)			
受 古峯 弘道(栃木)			



【柔の形】			【五の形】			【講道館護身術】		
1位	取	松本 紀子(愛知)	1位	取	榎本 好根(愛知)	1位	取	武井 弘美(長野)
受		石川 正栄(愛知)	受		中村 太(愛知)	受		矢崎 宏明(長野)
2位	取	岩田 美喜(愛知)	2位	取	高橋 洋一(埼玉)	2位	取	溝田 良英(長崎)
受		内田 みゆき(愛知)	受		大塚 俊彦(埼玉)	受		川上 寛之(長崎)
3位	取	小貫 道子(茨城)	3位	取	田中 健一(栃木)	3位	取	榎本 好根(愛知)
受		中村 洋子(愛知)	受		市川 建(栃木)	受		中村 太(愛知)
【古式の形】								
1位	取	清家 春夫(千葉)						
受		江口 宏康(東京)						
2位	取	小林 利彰(愛知)						
受		磯部 正博(静岡)						
3位	取	清水 正敬(東京)						
受		安藤 洋志(埼玉)						

第2回アジアグランドマスターズ
オープン柔道大会
(第10回記念日本マスターズ
柔道大会)

の運営を顧りみて(抜粋)

日本マスターズ柔道協会
事務局長
小林 潔司

昨年9月20日(土)・21日(日)の両日にわたって、講道館にて開催された第2回アジアグランドマスターズオープン柔道大会兼(第10回記念日本マスターズ柔道大会)は前回のマスターズ国際オープン柔道大会であった、4年前の平成22年(2010年)9月に新潟県長岡市において開催された、第7回全日本マスターズ柔道大会兼第1回アジアグランドマスターズオープン柔道と大会運営の面から比較、検討し、昨年と同様に本年の9月20日(土)・21日(日)に講道館において、開催される第3回アジアグランドマスターズオープン柔道大会(第11回日

本マスターズ柔道大会)の大会運営の基礎資料、また関係者の参考資料として、抜粋致しますので、ご一読下されば、誠に幸に存じます。

現在は55年ぶりの東京オリンピックが2020年に開催が正式に決定し、内外のマスターズ柔道のムーブメントも、更に世界的に一段と注目され、力強く、そして確実にその胎動が感じられます。

本年、節目の第11回大会開催を目度く迎える日本マスターズ柔道協会は、組織も改まり希望に満ちた新しい年を迎えます。皆様のさらなるご理解とご協力・ご支援を賜りますようお願い申し上げます

東京大会開催における主催者他について

4年前の新潟大会では主催者は、日本マスターズ柔道協会、国際柔道連盟(IJF)主管は新潟県柔道連盟・長岡柔道協会であったが、昨年の東京大会では主催者として国際柔道連盟(IJF)主管は全日本柔道連盟(全柔連)が主導権を以て大会運営を推進したと申し出があり、日本マスターズ柔道協会は東京都柔道連盟(審判員協力)と同列の協力団体としての立場で、当協会は大半の国内参加者約680名の申込

- 受付を行った。ほか後援として外務省、厚生労働省、文部科学省を主催者である全柔連より後援名義の使用許可を要請して頂いたが、時間的な問題で間に合わず、講道館、日本武道館の二者に留まった。本年も後援を政府省庁への要請を行って頂く場合には、省内手続・審査に時間的余裕を持つて行って頂く必要があると考えます。
- 担当業務の分掌
- 当協会は、
- ① 国内参加者のすべてに関しての取扱を行った。(総合案内、申込受付(参加費用・懇親会費用等))
 - ② 大会要項等(国内用)の作成、
 - ③ 大会プログラム制作(協賛広告・協賛金の営業)
 - ④ 表彰メダル、記念品の制作、
 - ⑤ 懇親会のアレンジ(費用、会場手配、演出ほか)
 - ⑥ 全柔連登録不備者の追跡調査・登録指導
 - ⑦ 登録再確認のための事前通知・案内
- 全柔連は、
- ① 海外参加者に関してすべての取扱を行った。(総合案内、申込受付(参加費用・懇親会費用))
 - ② 競技運営に関するもの(試合

組合せ、計量、審判員・審査員、会場(講道館)の手配)

③ 大会試合記録の作成・広報(個人試合、団体試合、形競技)

(審判員は都柔連の審判員を中心とする審判団、審査員は全柔連選出の審判団、競技役員・係員は全柔連大会事業課及び学生係員等)

④ 全柔連登録のチェック及び出場体重クラス・年齢区分の少数参加者への統合試合実施の組合せは、全柔連国際課が行った。

全柔連登録について

従来の当協会の大要項では、参加資格として全柔連登録は必須の条件として大要項に記載されていたが、徹底はされていなかった。今回から主催者としての全柔連は、大会出場絶対条件のひとつとして、全柔連登録を済ませた者のみが出場出来ると掲げ、未登録者・登録不備者は出場出来ないことを告知を行った。

最終的には申込者数(680名)の約3割(200名)が、不資格者と判明し、未だ、登録制度が十分徹底されていないことがあぶり出された。未登録者、登録不備者の完全登録に至るまでの案内を当協会に全て委ねられた。

(登録制度の不徹底、講道館登録番号との混同が多く見られ

た。全柔連登録制度の完全理解と完全登録を望みたい。

出場体重クラス・年齢区分の少数参加者への統合試合実施について

本大会は国際柔道連盟(IJF)全日本柔道連盟(全柔連)の主催によって競技の運営が管理されたため、体重クラス・年齢区分が6名に満たない少数参加者のトーナメント試合は、公平なる試合組合とメダル授与の基準として、IJF 特定の試合に関する規則(Regulations related to specific competitions, Annex2)の精神が適用された。従来は少数の参加者のため、試合が成立しない時には主催者、競技者の了解の下に記念品としてメダルが授与されていたが、今回からは試合が成立しない時は、当事者の承諾の下に体重区分・年齢区分の枠を広げ統合して、総当たり制も併用して、全ての出場者が試合を出来るよう弾力運用に改められた。

特に従来、出場者の少なかった高齢者・女子の選手の試合組合せには、この画期的なシステムが導入され、当該大会の試合全体のレベル・権威の向上が計られた。

TOPIX トピックス

高橋勘十氏の記事が、昨年12月17日の岩手日日新聞に掲載されました。



内藤 純氏の記事が、昨年12月27日の栃木南部よみうりタイムズに掲載されました。



「高橋寛十先生、岡田庫二郎先生がアブダビで特別功労賞を受けられました」

国際柔道連盟主催の第五回国際ベテラン柔道選手権大会が世界各国より420名を集めアラブ首長国連邦のアブダビ市で1月23日〜26日まで開催されました。11月25日M ビゼール国際柔道連盟会長より高橋勘十先生 講道館8段、82歳、岩手県)、岡田庫二郎先生(講道館8段、79歳、兵庫県の)の長年にわたる生涯柔道の功績をお祝いする特別功労賞として金の盾が贈られました。

「両先生の益々のご健勝と今後のご活躍を期待しております」とビゼール会長よりご挨拶がありました。「身に余る光栄なご配慮に感謝し今後とも生涯柔道を



通し青少年の育成に精進する」と力強いご返事が高橋・岡田両先生より返されました。大会会場はまさに一体となり感動と羨望が渦巻き大きな拍手が続きました。

式典後、アブダビテレビ局の生中継に出演されテレビ全国放映されました。柔道が青少年育成に貢献したこと生涯柔道を通りこれから現役で頑張りたいというインタビューに応じられました。



記念写真は高橋寛十・岡田庫二郎両先生を中央に左よりMビゼール会長、3人目大会財務担当N・アルタミミ氏。高橋先生の右隣、中村勇氏(全柔連)、2人目ベテラン柔道大会会長のA・ボンダール氏の順。

両先生には早朝の待機から夕方のテレビ中継までほんとうに長い

一日お疲れ様でした。最後にテレビインタビューとのスリーショットで“にっこり”されたのが印象的です。

内藤光伸

日本マスターズ柔道協会

『愛唱歌 募集』（中間発表）

マスターズ柔道の歌

福盛田 立明

一 おさななじみの柔道で
世界の広場で 戦いを
僕と君とで 柔道を
心のきずなで 花が咲く
エイ エイ オー

二 おさななじみの柔道で
愛の広場で 歌おうよ
僕と君とで 柔道を
仲良くなれるマスターズ
エイ エイ オー

三 おさななじみの柔道で
愛の心に 夢がある
僕と君とで 柔道で
仲良くなれるマスターズ
エイ エイ オー

*「リパブリック賛歌」
アメリカ民謡 有名な替え歌で
①「こんべさんの赤ちゃん」
②「ヨドバシカメラの歌CM」
③「おたまじゃくしはカエルの子」

マスターズ柔道の歌 片桐 清司
「王将」の替え歌で

一 吹けば飛ぶよな
子供でさえも
道着つければ 勝負に賭ける
五十六十で柔の味が
やつと解かった
マスターズ柔道

二 あの手この手の 思案を胸に
今年も戦うアジアに世界
愚痴を言いつつ 女房の小春
つくる料理が いじらしい

三 明日は講道館に
出て行くからは
風格備えて 勝たねばならぬ
七十八十 大先達の
背中であたる マスターズ柔道

*道着(どうぎ) 大先達(だいせんだつ)
背中であたるせなでお
そわる

*女房の小春↓自分の奥さんで

マスターズの歌 山本 昭
「孫」の替え歌で

一 何でこんなに凄いのか
マスターズ大会出る人は
じいちゃんあんなもやつて
みたら
妻に言われてその気になつて
上がるテンション
上がるテンション最高潮

二 八つ手見たいな大きな手で
ぐつと掴むよ奥襟を
仕事 一途で果たせなかつた
選手権大会
代わりのマスターズ
今は目指して
今は目指しているところ

三 勝つてくるぞと大空仰ぐ
四月高段者大会で
一本勝ちして、
マスターズ大会

弾み付けたら祝いの言葉
祝い言葉をかけてくれ

マスターズ柔道の歌 山本 昭
「柔道一直線」の替え歌で

一 立ち技、寝技に、
返し技に
柔に掛ける情熱も
元気を、出して
目指せよマスターズ
ああ…ああ…生涯現役だ

二 勝つも負けるも、若い頃
流した汗は無駄じゃない
元気を、出して
今日も稽古だ
ああ…ああ…生涯現役だ

三 健康と家族や仲間の
協力有るから頑張れる
元気を、出して
今年も行こうマスターズ
ああ…ああ…生涯現役だ

マスターズ柔道の歌

原田 伸治

一年と思うな 思っちゃ駄目よ
まだまだ若いぞ この胸の
奥に生きている青雲の志が
さらなる高嶺を 明日の
飛躍を待っている

二 人はそれぞれ 仕事もあるが
暇を見つけて 稽古する
せめて今宵は青春の世に
滴る汗を みなぎる気合いを
ほとばせる

三 そうは言っても 休みも大事
無理を通せる 年じゃない
稽古が終われば 一杯やつて
おいしい肴と うまいお酒で
夜も更ける

第6回国際ベテラン柔道大会 スペイン開催決定

本年の国際ベテラン柔道大会が、スペイン南部の都市マラガで開催されることが予定されています。

【日程】

9月25日 26日 27日

※日程等については変更の可能性が多分にあります。

※マラガはスペイン南部、アンダルシア州、マラガ県の自治体で、同県の県都。人口は56万人で、スペイン第6位。地中海に面し、リゾート地コスタ・デル・ソルの中心である。画家のピカソの出身地としても有名。



編集後記

平成25年、日本マスターズ柔道大会は節目となる10回目を迎え、IJF・全柔連との共催で、第2回アジアグランドマスターズオープン柔道大会兼第10回記念日本マスターズ柔道大会として9月21日(土)・9月22日(日)の2日間、講道館で外国人64人を含む74人の出場で盛大に開催された。注目の団体戦は男子、先鋒30歳代、次鋒40歳代、中堅50歳代、副将60歳代、大将70歳代の5人制で行われ、外国人5チームを含む44チームが、3人制の女子も7チームが覇を競った。昨年ブラジルからアメリカに会場が移り、日本マスターズ山口大会と日程が重なり参加を見送ったIJF世界グランドマスターズ柔道大会は第5回国際ベテラン柔道大会と名称も新たに初めて中近東UAE・アブダビで11月24日〜26日開催されたが、日本マスターズ17名、個人参加5名の22名で金9個、銀4個、銅5個の計18個のメダルを獲得した。今年女子会員の増強と第三回アジアグランドマスターズオープン大会兼第11回日本マスターズ大会を1,000名規模の大会にするよう会員一丸となつて頑張ります。

西久保 博信